平成２８年度　第１回鳥取市行財政改革推進市民委員会・会議概要

日　時：平成 28 年 8 月 31 日（水）　午後２時から３時４５分
場　所：鳥取市役所　本庁舎４階　第４会議室
出席者：≪委員≫
内田 一真 委員、川口 耕 委員、倉持 裕彌 委員、石畑 美幸 委員、
清水 はるみ 委員、玉木 真人 委員、福山 裕正 委員、山下 博樹 委員、
山下 恭史 委員、吉永 昇平 委員
≪鳥取市≫
河井総務部長、坂本行財政改革課長、河上行政経営係長、藤原主任、岩田主任

会議概要（事務局による要約）

１. 開会

河上係長 ：

それでは定刻になりましたので、平成 28 年度第 1 回鳥取市行財政改革推進市民委員会を開催いたします。本委員会の設置要綱第 5 条第 2 項では、委員会の委員の半数以上の出席がないと会議を開くことができないと定められています。本日は 10 名の委員の皆様全員のご出席をいただきましたので今回の会議が成立していることをご報告いたします。それでは開会に当たりまして河井総務部長よりご挨拶を申し上げます。

２. 挨拶

河井部長 ：

本日はみなさまお忙しい中、本市の行財政改革推進のために貴重なお時間をいただきますことを、お礼を申し上げます。全国的な少子高齢化並びに大都市圏への人口集中が進む中、本市の人口も市町村合併後わずか 4 年 3 か月で 20 万人を慢性的に下回っております。昨年 10 月に行われました国勢調査の速報値では 193,766 人という状況で、いままで以上の対策を講じなければより急速な人口減少とそれに伴う市税等の減収が懸念されます。また合併に伴う国からの地方交付税の優遇措置も年々減少しており、この厳しい財政状況の中、先ほど述べましたような今まで以上の対策を講じるとなれば、やはり財源というものが必要となることから、事業の見直しによる選択と集中が必要というような段階に来ておるところでございます。このことも踏まえまして今後一層の財政基盤の強化を図るべく、また後程詳しく説明をさせていただきますが本市の第 6 次行財政改革大綱において、市税収の確保・増大、ふるさと寄附金の増加、そして 15 歳以上 40 歳未満の転出者の数を転入者の範囲内に収めるという大きな３つの総合的な目標を掲げ、本年２年目を迎えておるところでございます。このような中、このたびの行財政市民員会におきましては、地方創生の推進と同様に産学官金労言ということで様々な分野から委

員として参加いただけるようお願いをいたしましてメンバーの刷新を図らせてもらったところでございます。今日がキックオフミーティングという段取りになりました。委員の皆様には幅広い視点と見識から現在の鳥取市の取組について、客観的な評価をいただきますと共に、より一層の推進に向けましたご提案をいただきたいと考えております。ご協力のほどをよろしくお願いいたします。簡単ではございましたが、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。

3. 各委員自己紹介

省略

4. 委員長、副委員長の選任

河上係長 ：

続きまして委員長、副委員長の選任を行いたいと思います。本委員会の設置要綱第 4 条に基づき、委員の互選により委員長、副委員長一名ずつを選任いたします。選任方法につきましては事務局案もございますが、皆様の方から何かご意見があればお伺いしたいと思います。皆様何かございますでしょうか。

清水委員 ：

一任でお願いします。

河上係長 ：

ありがとうございます。それではいま事務局にお任せいただけるということで一任をいただきました。事務局といたしましては、委員長に山下恭史委員、副委員長に山下博樹委員を推薦します。ご異議がないようでしたら皆様の拍手をもってご承認いただけたらと思います。

委員一同　：　（承認の拍手）

河上係長 ：

どうもありがとうございました。それでは山下委員長と山下副委員長から一言ずつご挨拶を頂戴できればと思います。

山下恭史委員長 ：

委員長を拝命しました山下でございます。昨年までこの委員会の経験がありますので挨拶がてら少し経緯に触れさせていただきます。大綱の中にも書いてありますが、昭和 61 年から行財政改革が始まり、平成 15 年ごろには内部評価というものが始まりました。そして平成 18 年に第 1 回のこの市民委員会が発足して、内部評価に対し、外部の専門的見地やあるいは市民目線を入れてきちんと再度評価しなおそうという動きが出てきました。例えば平成 22 年あたりには、休みも使って担当部とヒアリングをしたりしました。

当時は個別の事務事業について何項目かを選んでやっておりました。先ほど総務部長さんの挨拶で総合目標というものに触れられましたがこれは平成17年の第4次行革大綱から定められたものです。しかしこれまでの委員会では総合目標との連動があまりなく、どちらかといえば個別の事務事業を中心に議論をしてまいりました。平成22年から始まった第 5 次行革大綱でも、若干触れてきたとはいえ、総合目標というものへの十分な議論がまだまだなされていなかったと思っております。今後は当然個別の事務事業への評価は重要ですが、総合目標をいうものを念頭に入れながら新しいアイデアですとか、あるいはさらなる飛躍の糧になるものが生み出せられればと思っております。そのためにも、新しい委員の皆様方からの斬新な切り口と豊富なアイデアでもって意見交換ができればなと思っております。過去の経験からすると行政というのは我々民間からするとどうしても動きが遅く感じてしまうところがあります。が、これは議会や各種団体との関係性があるからと思っています。そういった運用のルールも理解しながら新しいものを生み出していくというのは容易ではありませんが、客観的な視点をもって、新しい委員の皆さんと力を合わせながらこの委員会の設置の目的に沿った活動ができればいいなと思っておりますし、そういった活発な議論になるように少しでも頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いします。

山下博樹副委員長 ：

部長さんから最初にご挨拶いただいたように、いろいろな課題が今地方の都市にありますが、これから地方行政をどういう風に考えていくのかということを確認しながら、かつ市民の皆さんがどういうことを望んでいるのかということも踏まえてやっていく必要があるのかなと思っております。私も鳥取に住むようになって18年になります。その間良いところも悪いところも見させていただいたり、あるいは市役所の仕事をお手伝いさせていただいたりする中で市役所の雰囲気というものも自分なりに理解しているつもりです。どうぞよろしくお願いします。

河上係長 ：

ありがとうございました。それでは議事に移りたいと思いますが、議事に移る前に準備を行いますので、若干休憩を取らせていただきます。

（休憩）

5. 議事

（1）委員会の進め方について、（2）第6次鳥取市行財政改革大綱及び実施計画について

河上係長 ：

ではそれではさっそく議事に入りたいと思います。以後の進行は山下委員長様よろしくお願いいたします。

山下恭史委員長 ：

本日の議事としてお手元に次第があると思います。議事（1）ではまず委員会の進め方についての説明をいただいて、そして議事（2）では第 6 次行革大綱の説明をそれぞ

れ事務局からいただきたいと思います。まず進め方について事務局の方から。

岩田主任 ：

できれば（１）の委員会の進め方についてと、（２）の行革大綱についてをまとめて説明させてください。

山下恭史委員長 ：

わかりました。ではお願いします。

岩田主任 ：

では事務局からこの議事の内容（１)、（２）についてまとめて説明をいたします。

～以下　説明～

山下恭史委員長 ：

どうもありがとうございました。では先ほどの説明についてご質問やご意見はございますか。今後の進行予定やスケジュールについても言及がありましたのでそのあたりの質問でも結構ですのでどなたかあれば。

山下博樹副委員長 ：

最後にご説明いただいた平成２７年度の進捗状況のことについていいですか。その説明の直前に、平成２９年度の予算編成はこういう最優先課題でやるよというようなお話がありましたが、平成２７年度ではどういうことを優先的に取り組まれてきたのでしょうか。平成２７年度もたくさんの取り組みをされていますが、やはりそのなかで優先とかそうじゃないものがあるということであれば、優先的なところが遅れているというのは影響が大きいと思いますし、それらがちゃんと進捗できているのかどうかというところをお聞きしたいのですが。

坂本課長 ：

平成２７年度の事業ついて優先順位はつけていません。実は予算編成方針で最優先課題を作ったのもこの度が初めての取組です。事業の取り組み方としては、基本的には総合計画に掲載された事業を総花的に進めていくというのが今までのスタンスでした。ですが平成２７年の国勢調査結果を踏まえて、交付税の算定額が変更になり、今年は平成２７年度に比べて18億円も減っております。さらに、地方交付税の合併算定替えという、合併後の優遇制度が終わり、来年は大幅な減額となります。これにより平成２９年度予算では平成２８年度に比べ３億４千万円の自由に使えるお金が減るだろうという見込みを立てました。そこで最優先課題を来年度の予算編成に向けて定めたという経緯がございます。

山下恭史委員長 ：

そのほかありますか。

清水委員 ：

評価シート見ますが、過去のものが漠然としていて分かりづらいです。それからこの評価をする時には予算も含めて評価されているんでしょうか？

坂本課長 ：

まず予算を含めた評価かということですが、この評価は事業の進捗度合について担当課が自己評価したものです。ただ、評価シートでは見えませんが、この評価と併せて各担当課長から、この事業をそのまま継続するのかそれとも効果が薄れているので廃止するのかといったコメントがなされまので、これらをもとに翌年の予算査定を行っていくという取り組みはしています。それから評価シートの過去のものが分かりにくいということですが、確かにこれは単年度の進捗具合を評価したものなので、過去のものが見えないということがあります。また、このシート様式も平成２６年度からは変更になっていることもあって、単純に比較ができにくい状況です。したがって平成２８年度の中間評価をお示しする際は、現在お手元にある平成２７年度の年度評価と照らし合わせながら外部評価していただけるような資料作りをしたいと思います。

岩田主任 ：

ここに書いてある意味が分かりにくいということであればまたご質問いただいて、それにはこういう意味ですよというのはお答えできるようにしたいと思います。

山下恭史委員長 ：

ちょっといいですか私の方から。この評価シートのことですが、先ほど課長から言われたように今までのものとフォームが若干変わっていますが、基本的にはこれをベースに従来からやってきております。このフォームを見にくいからといって変えようとするとまたお金がかかってしまうので、分かりにくいところはちょっと我慢していただくということは必要だと思います。それとですね、先ほど事務局の方の説明がありましたけども、全体の達成度でＡがかなり進捗度が高くＢがほぼ計画通りというのがありました。これはあくまでも自己評価なので、この委員会ではそもそもこの計画で良いのかどうか、この数値目標でいいのかどうかということも討議できるんではないかなと思っています。

山下恭史委員長 ：

ほかにありますでしょうか。ご意見、あるいはご質問でも結構です。

石畑委員 ：

これは私の希望でもありますが、こういった会議に出させていただくにあたって、今回はこうやって資料を事前にいただいているので読み込むことができますし、事前に質問を事務局さんの方に投げることができるというのは非常にありがたいなと思ってます。今回特にボリュームがかなりありますので、やはり限られた時間の中でやらせていただくことにあたっては、このやり方で事前に質問をさせていただければ有意義な時間がもてると思います。それから、やはり会議としては時間通りに終わっていただけるとありがたいと思っております。

山下恭史委員長 ：

承知しました。今回は初回でしたので様子を見ながらというところもありましたが、基本的には時間通りに終わりたいと思っております。それから資料については事前に事

務局からもらっておりますので、是非委員さんは読み込んでいただければと思います。確かにたくさんありますので大変ですが、せっかくこのようにいろいろな分野の方が出てきていただいてるので、少なくとも自分の関心をもっていらっしゃる分野であるとか、あるいは問題意識をもっていらっしゃる分野についてはぜひ読み込んでいただいて充実した議論になるようにお願いしたいと思います。

山下恭史委員長 ：

そのほか、ありますでしょうか？

内田委員 ：

この大綱の中にいろいろ施策がありますが、例えば我々は市役所で何人働いているのかわかりませんが、本当にこれだけの施策をこの職員の数でやっていけるものなのでしょうか。ここに挙がっているものは、取り組んでいかなくてはいけないというのは分かりますが、もしこの委員会で議論しても、実際にはできないとなっては意味がないので、先ほど平成２９年度の予算の最優先課題を決めたとの話があったように、優先順位を決めて議論ができたらと思います。

山下恭史委員長 ：

例えばこの事業の中で、何番の事業をもっと重点的に取り組んでください、何番の事業は必要ないのではないでしょうかといった議論はできると思います。職員の数は適正化計画があって少なくなってきていますが、事業は増えてきているはずです。そういった状況では多くの施策からいくらかはリストラしていかないとというのは必要かと思います。ですので私たちは市民目線で、総合目標に寄与できていないものとか費用対効果が出ていないものとかを見て、無駄な事業じゃないですかということも言っていけばいいと思います。

山下恭史委員長 ：

そのほかありますか。

清水委員 ：

ですが３年計画でやっているわけですし、見てみると全て関連性があるような気がします。これがダメということではなくて、いかに改革をして効果を上げていくかということが目的だと思います。ですからそんなに私は捨てるような事業はないのではと思います。

山下恭史委員長 ：

そうですね。過去の委員会では、従来の事業を合体してはどうかとか、複数の課で同じような事業をしている場合は一緒にしてはどうかといった議論もありました。ですからそういったことも含めてこの委員会の中で皆で議論をしていければ良いのかなと思っています。

山下恭史委員長 ：

そのほか。よろしいですか？私から。次回以降、２回目３回目の進め方について、Ａ

３のマッチングシートの説明と併せて事務局の考えを聞かせてもらえますか。

岩田主任 ：

このマッチングシートですが、先ほど説明しましたように皆様から出していただいた個人のテーマ、それに対して行革大綱で定められている事業の計画というのを並べたものです。さらに一番左には鳥取市が平成２９年度予算編成にあたり最優先課題として挙がっているものを並べたものです。皆様にしていただく評価の対象は７８もの計画になりますので、全てを見ていくというのは時間的にも難しいと思いますからどの計画から評価していくかという優先順位をつけるためにこのマッチングシートがあります。このシートの中で、個人テーマ、実施計画（マッチングシート中「市の事業」の欄)、市の最優先課題の３つが合致している番号から優先的に見ていきたいかなと考えております。たとえばここでしたら 28 番と 75 番それから 37 番と 38 番といったところをまずスタートとしてやっていければと思っております。

山下恭史委員長 ：

この実施計画が書いてない部分も含めてですか？

岩田主任 ：

そうですね。今のところシート上で実施計画とマッチングできていないものもありますが、それらも最終的には議論できればと思います。

山下恭史委員長 ：

内容を見たところ、実施計画が書いていないものの中にもマッチング出来そうなものがまだあると思います。例えば一番下の玉木委員さんの企業誘致のお話や、内田委員さんのお話も観光振興という観点の中では実施計画に該当しそうなものがありそうですね。

坂本課長 ：

はい。今回お渡した評価シートは平成２７年度の年度末評価のシートをお出ししましたが、次回は平成２８年度の中間評価のシートもお出しします。ですので今年度の進捗がどうかというところを見ていただきますが、先ほどありましたように、全ての計画を見ると膨大で果てしないので、それぞれ出していただいた興味のあるテーマと重なっている部分に集中して評価されてはいかがでしょうかというのが事務局としての提案です。

山下恭史委員長 ：

次回のテーマについてご意見がある方はいらっしゃいますか。

山下博樹副委員長 ：

テーマについてではありませんが、毎回送っていただく資料を見てくるのにも限界がありますので、次回の議題があらかじめ分かっているのであれば、関連資料を厳選してお送りいただけるとありがたいなと思います。

山下恭史委員長 ：

次回ですとさきほど事務局からあったように個人テーマと実施計画と最優先課題が合致したもの、それから実施計画が記載されていないけれど個人テーマに多少関わってい

るところ。それを見ましょうか。もし追加で次回取り上げてほしいと言うものがあれば事務局に別途連絡してください。事務局としてはそれらを取りまとめて資料を送っていただくということでよろしいですか？

坂本課長 ：

はい。

山下恭史委員長 ：

では今回の委員会での議事はこれで終了ということにさせていただきます。事務局から次回の日程調整についての説明をお願いします。

6. その他

岩田主任 ：

はい。本日の資料に 10 月のカレンダーという名前の用紙を付けております。これに出席不可の箇所に×を書いて事務局にお送りください。用紙のデータは改めてメールでお送りします。

清水委員 ：

次回の資料というはいつ送って下さるんですか？

坂本課長 ：

中間評価が９月末の実績で行われますので、１０月以降でないと配布できないと思います。

7. 閉会

山下恭史委員長 ：

よろしいでしょうか。では以上で第 1 回の委員会を終了したいと思います。どうもお疲れ様でございました。